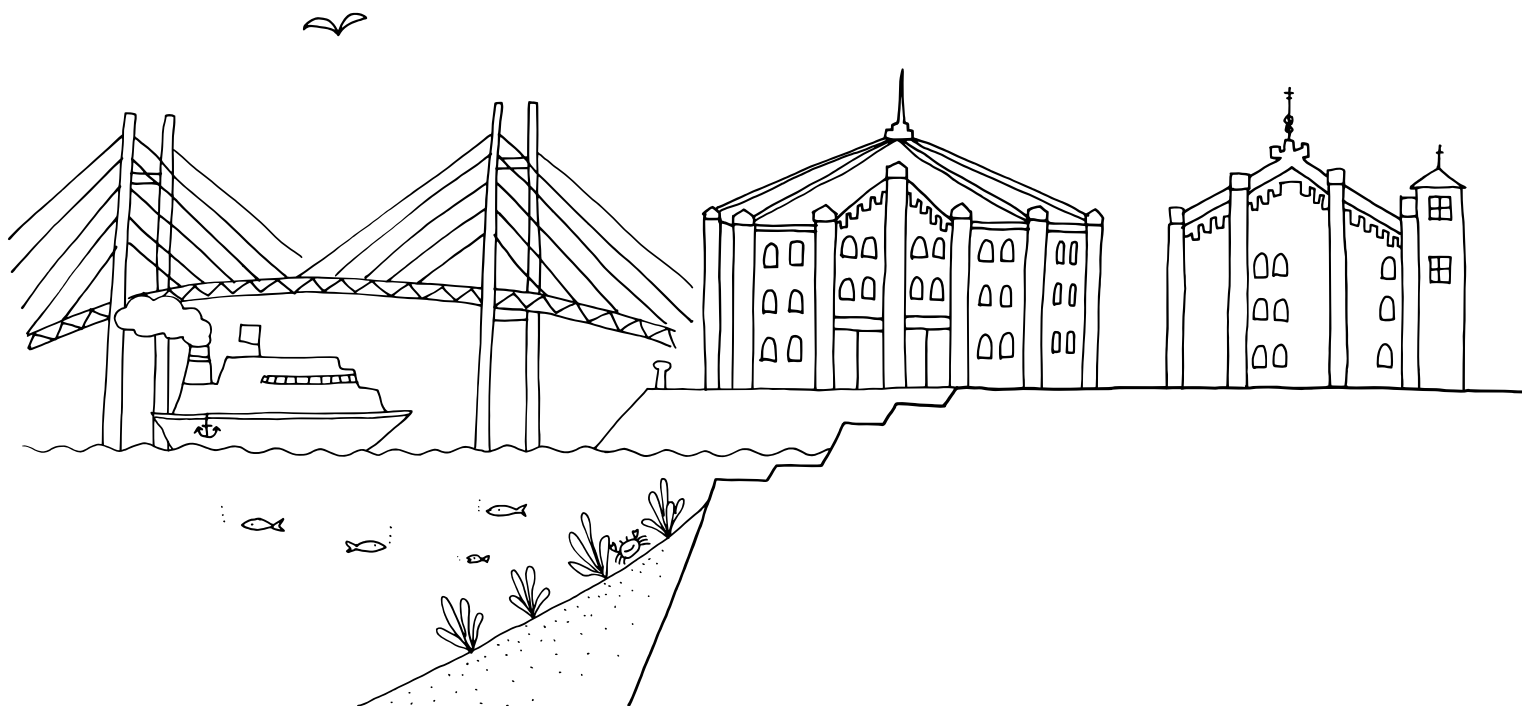
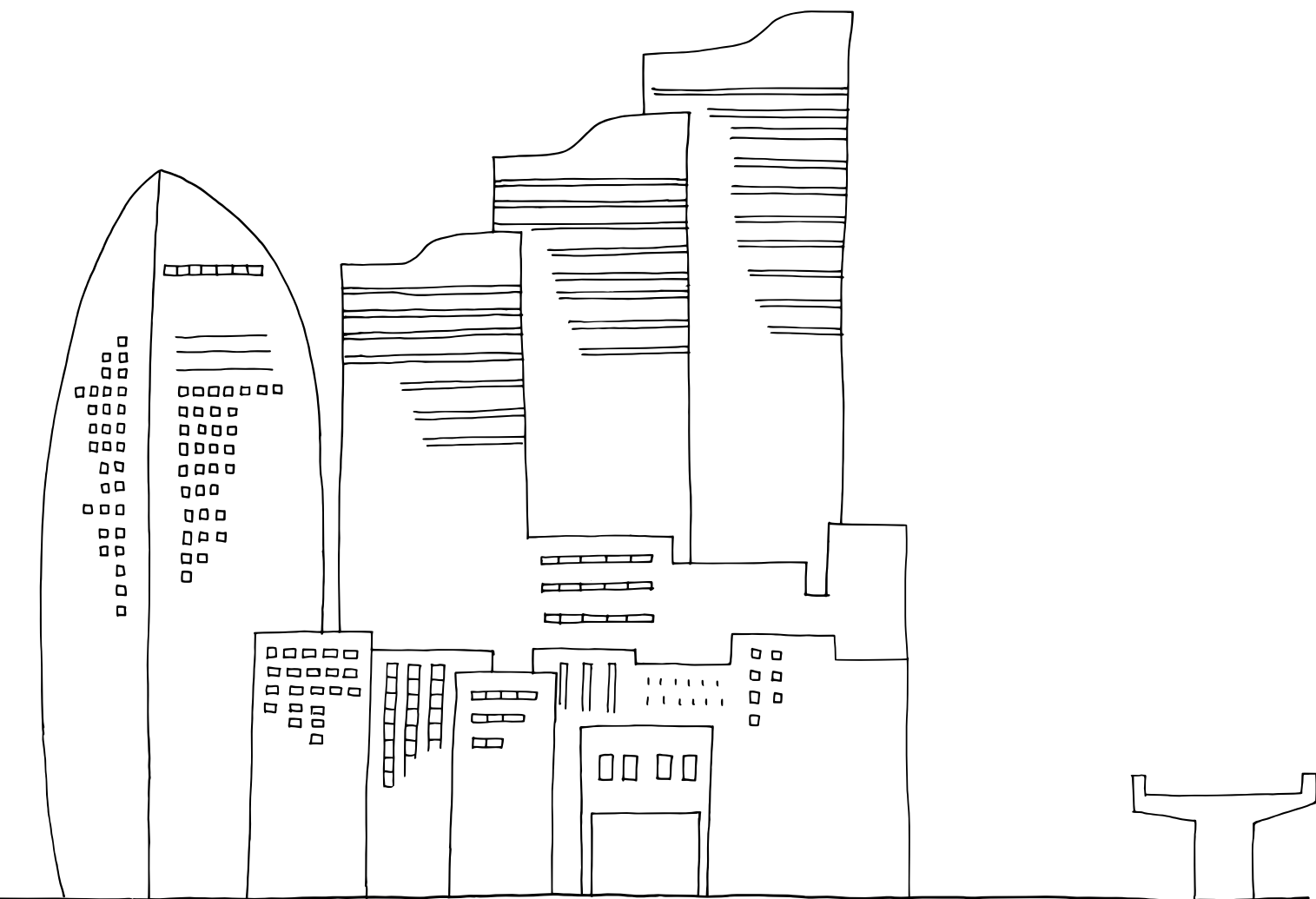


## 別章 風景スケッチブック

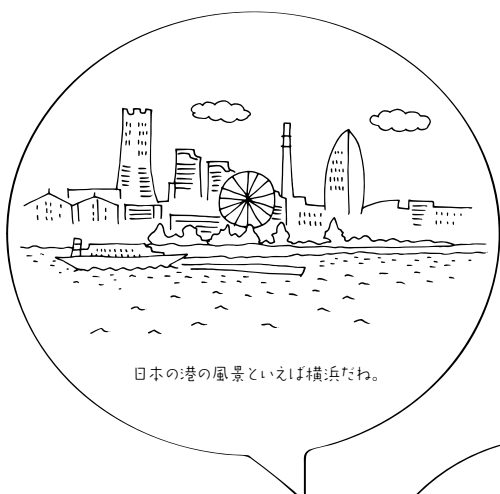
## 風景スケッチ 02:都心臨海部01





## 別章 風景スケッチブック

## 風景スケッチ 02:都心臨海部01 描き込み例



海から見た視点を意識し、  
美しい港の景観が創り出されている。

- 水際線の積極的かつ特徴的な緑化と  
オープンスペースの連続的な演出
- 港らしい遺産の積極的な活用(クレーン、倉庫、工場など)
- 横浜港の代名詞となりうる象徴的な施設
- 高層建築物の先進的なデザインへの取組
- まちや富士山への眺望

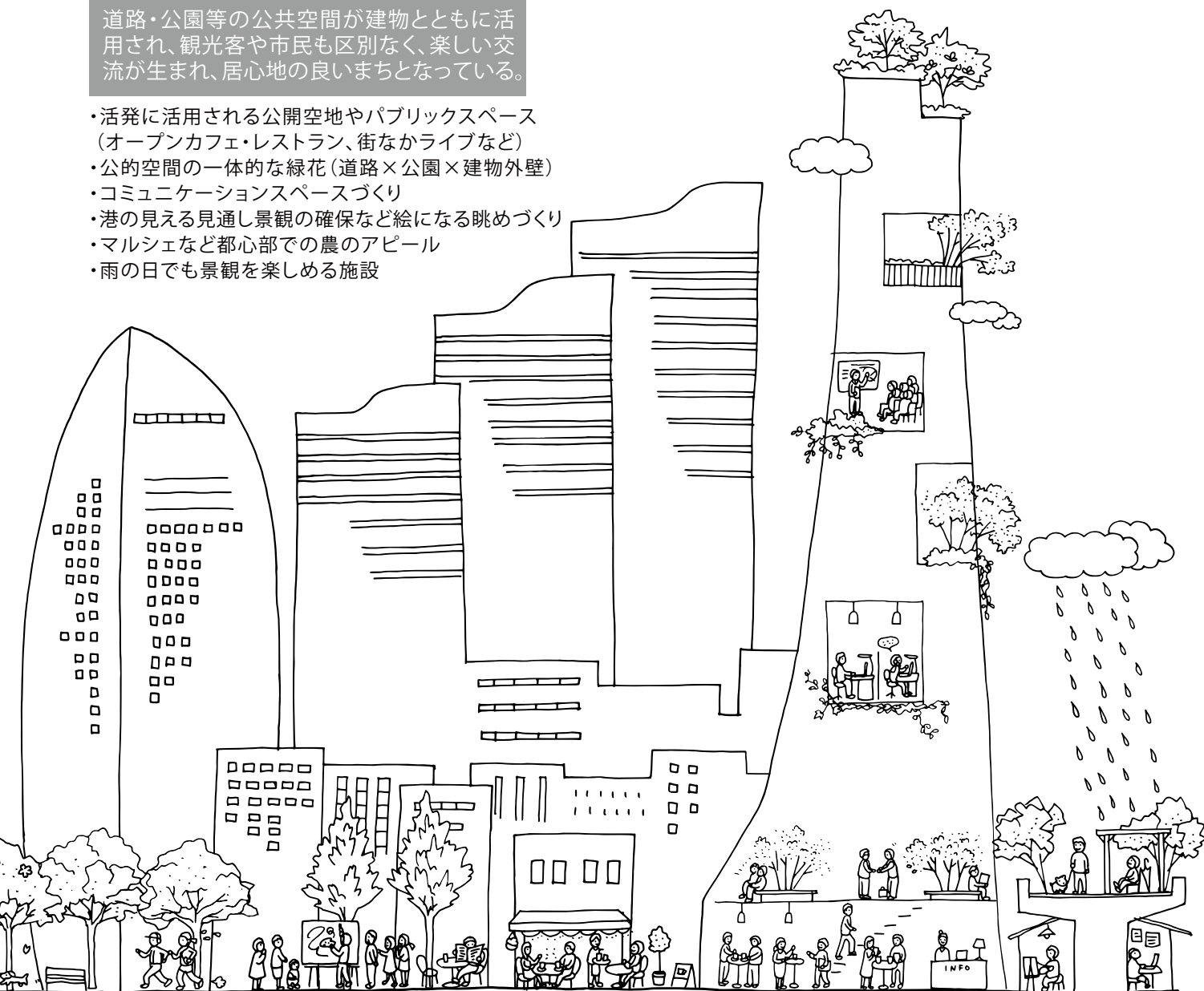


川辺・海辺の開放が進み、水辺が市民の日常的な憩いや  
観光目的地の中心となり、さまざまな体験が提供されている。

- 水際のレストラン等商業利用
- 都市の特徴を活かしたアートイベントやインスタレーション
- 水上(海上)利用  
(カヤック、水上レストラン、イベント用フロートなど)
- 水上交通や水陸両用観光バスなどの水域交通
- 生物等の力を活かした水質浄化

道路・公園等の公共空間が建物とともに活用され、観光客や市民も区別なく、楽しい交流が生まれ、居心地の良いまちとなっている。

- ・活発に活用される公開空地やパブリックスペース（オープンカフェ・レストラン、街なかライブなど）
- ・公的空間の一体的な緑化（道路×公園×建物外壁）
- ・コミュニケーションスペースづくり
- ・港の見える見通し景観の確保など絵になる眺めづくり
- ・マルシェなど都心部での農のアピール
- ・雨の日でも景観を楽しめる施設



歴史的景観が面的に保全され、歴史的建造物の活用・再生が進み、文化・芸術・観光・MICEに資するユニークベニューとして積極的に活用されている。

- ・歴史を生かしたユニークベニューのプロモーションなど観光MICEとの連携
- ・橋梁や河川などの都市の自然資源の活用
- ・ウェディングの似合う街並み
- ・歴史的建造物の保全やリノベーションなどによる不動産事業
- ・歴史的建造物を活用した文化芸術観光拠点



## 別章 風景スケッチブック

## 風景スケッチ 03:都心臨海部02



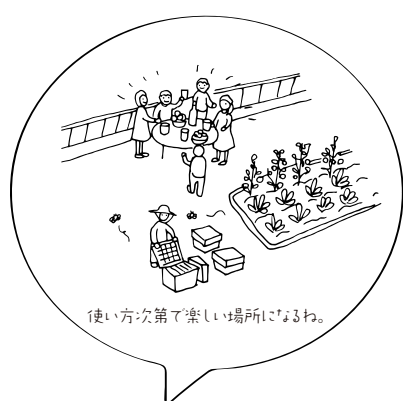


## 別章 風景スケッチブック

### 風景スケッチ 03:都心臨海部02 描きこみ例

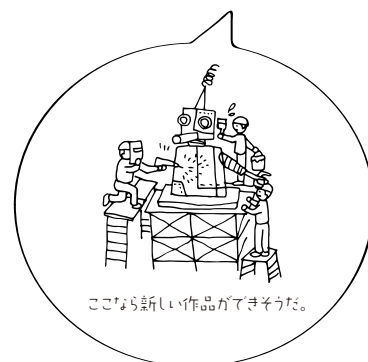
都心環境が向上し、国内外の多く人が訪れたり、移り住んだり、働いたりしている。

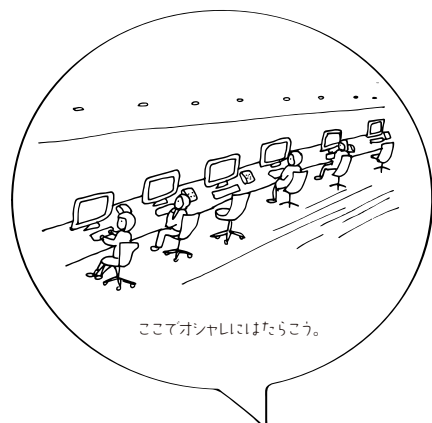
- ・市庁舎跡地、山下埠頭等の大規模な土地利用転換
- ・都心居住、職住近接によるライフスタイル
- ・建物の低層部のにぎわいと街並み
- ・都市空間演出(ライトアップやイルミネーション、ウォールペイント等)



眠っている空間や低利用だった空間が、個性的な空間として生まれ変わって新しい使い方をされている。

- ・防火帯建築などのリノベーション
- ・サードプレイス
- ・雑然としつつも交流が活発でにぎやかな空間のあるまち
- ・街並みと調和し、にぎわいを創出する屋外広告物
- ・ニッチな空間を活かしたデザイン





人や環境にやさしい公共交通など、移動手段が多様化し、都心臨海部をワイドに移動・観光できるようになっている。

- ・シェアモビリティ(自転車、電気自動車、電動バイク)
- ・LRT、連接バス等の新たな交通
- ・スロー交通を考えた道路
- ・デジタルサイネージなどによるまちの回遊性を高める案内
- ・歩行者空間の快適なネットワーク



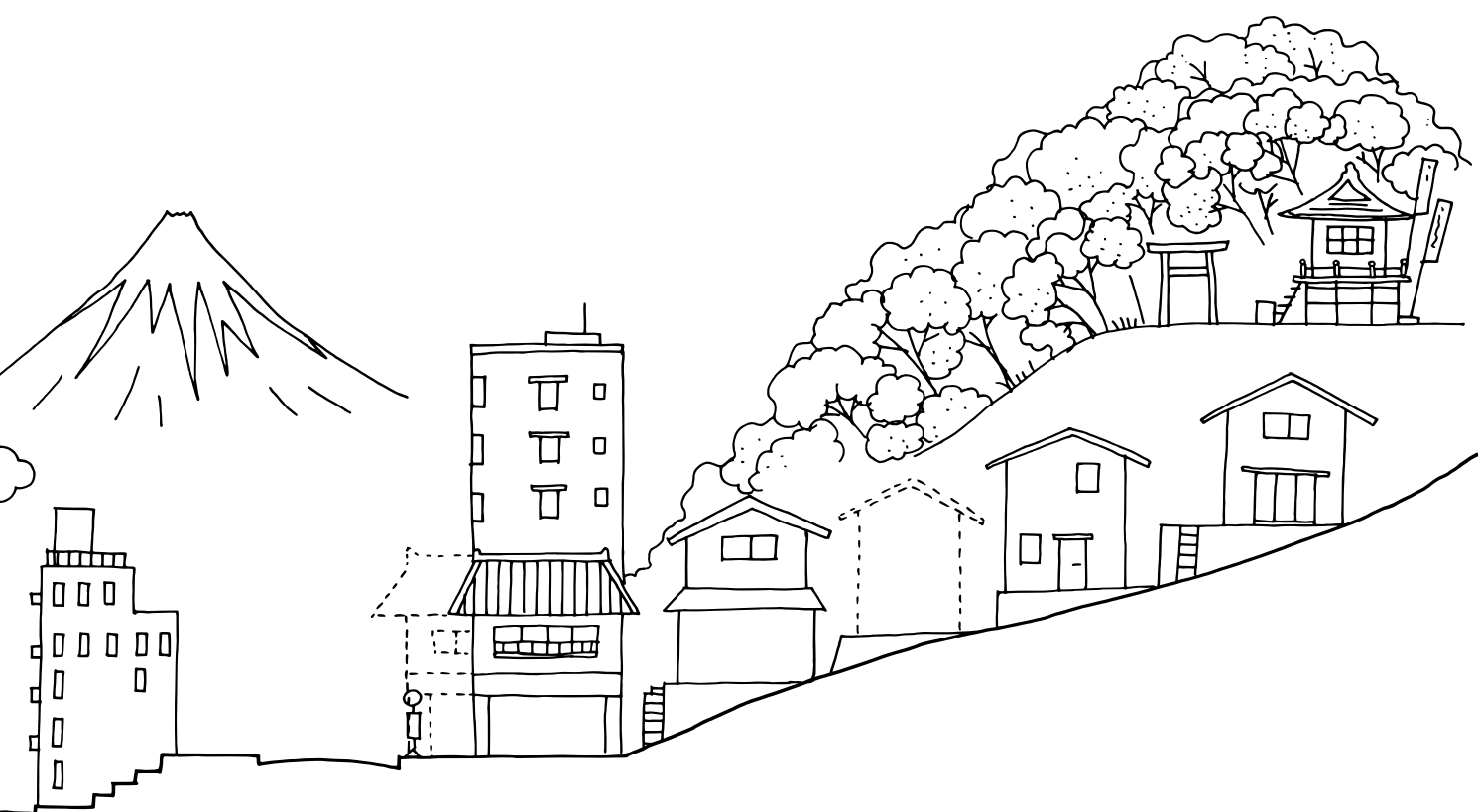
様々な分野や職種の人が住み、働くまちとして定着し、文化・産業・教育が活発なまちになっている。

- ・文化芸術活動拠点づくりと活用
- ・創造産業や起業家を集積・育成する支援組織、市民スクール、
- ・横浜デザインフェスティバル、トリエンナーレ等芸術フェスティバル
- ・創造的な保育環境づくりなどの新たな取組
- ・介護や育児が仕事と両立して、楽しめる生活環境づくり

## 別章 風景スケッチブック

## 風景スケッチ 04:高密度な既成市街地



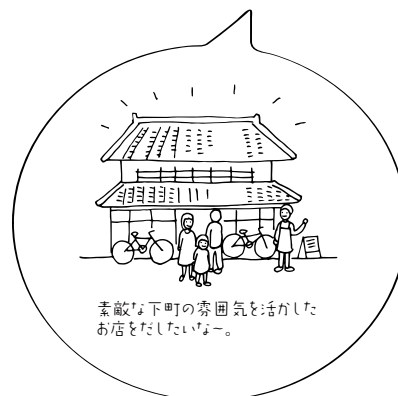
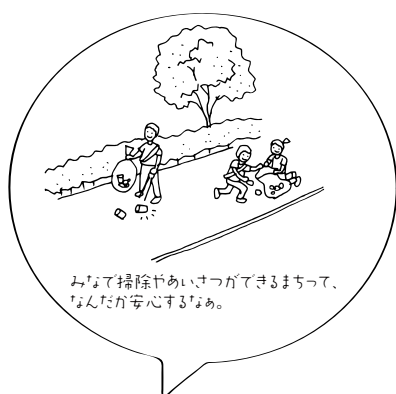


## 別章 風景スケッチブック

## 風景スケッチ 04:高密度な既成市街地 描き込み例

坂道など地形を活かした景観を意識した環境がつくられ、地域全体で保全活動をしている。

- 海や港、富士山などの眺望の確保
- 坂道や住宅地など地形や特性を活かした景観形成と魅力づくり
- 防犯パトロールの体制づくり
- 道路や公園などの地域による管理・運営





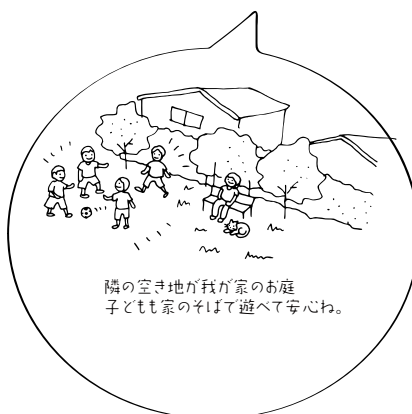
災害対応力を高めつつ、坂道や路地、小広場を魅力的に演出するなど、下町らしい風情も感じられるまちづくりが進んでいる。

- まちの小広場整備
- 防火・耐火住宅への建て替え
- 坂道、路地をコミュニティ醸成の場に
- 楽しく防災を知り訓練ができるイベント
- 道路の拡幅と建物等のセットバック



路地の雰囲気や木造密集地域ならではの特徴を活かし、子供のための遊び場や地域住民が交流する場が生まれている。

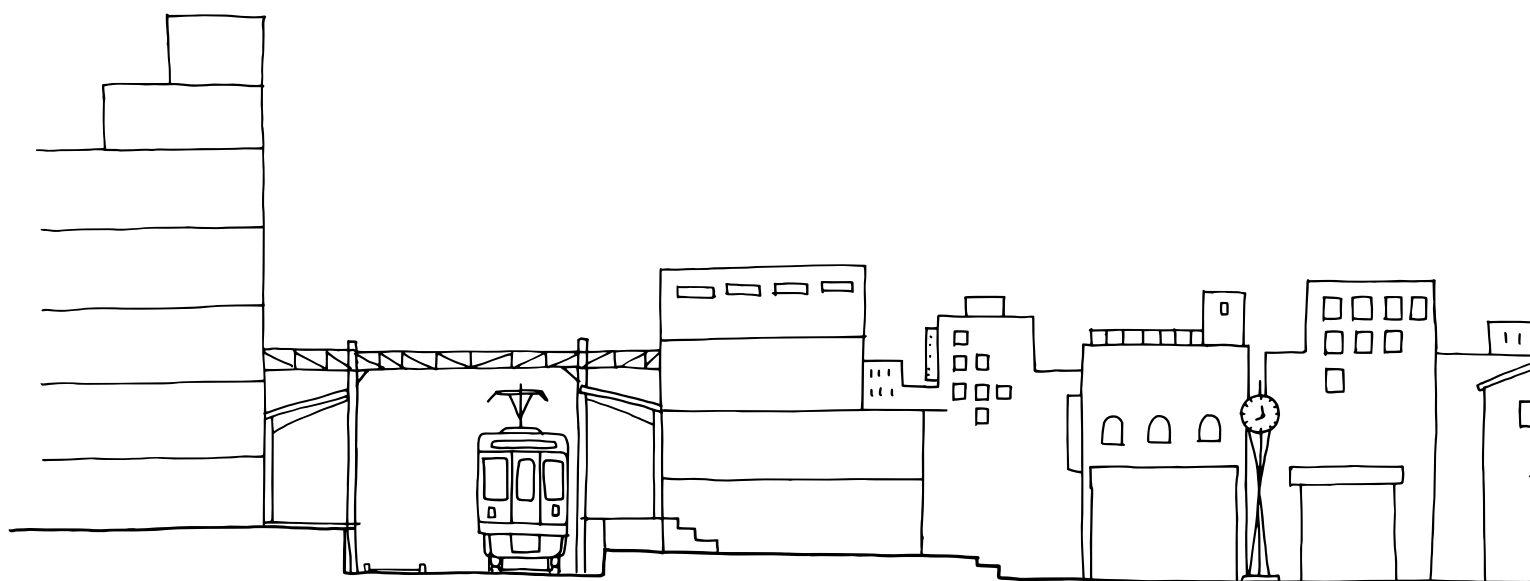
- 空き家に対して、小規模小売店舗の新規出店などによる利活用や、オープンスペース化等によるまちのゆとりづくり
- 通りを挟んだまちのまとまりの形成
- 地域による日常的な路地の維持管理

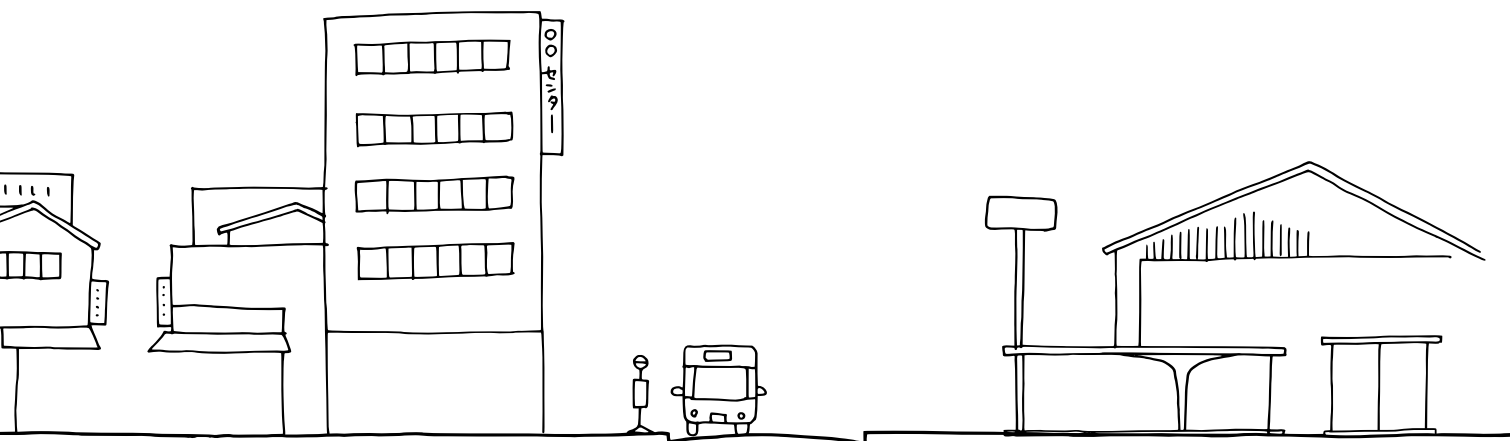




## 別章 風景スケッチブック

## 風景スケッチ 05:郊外駅前および周辺



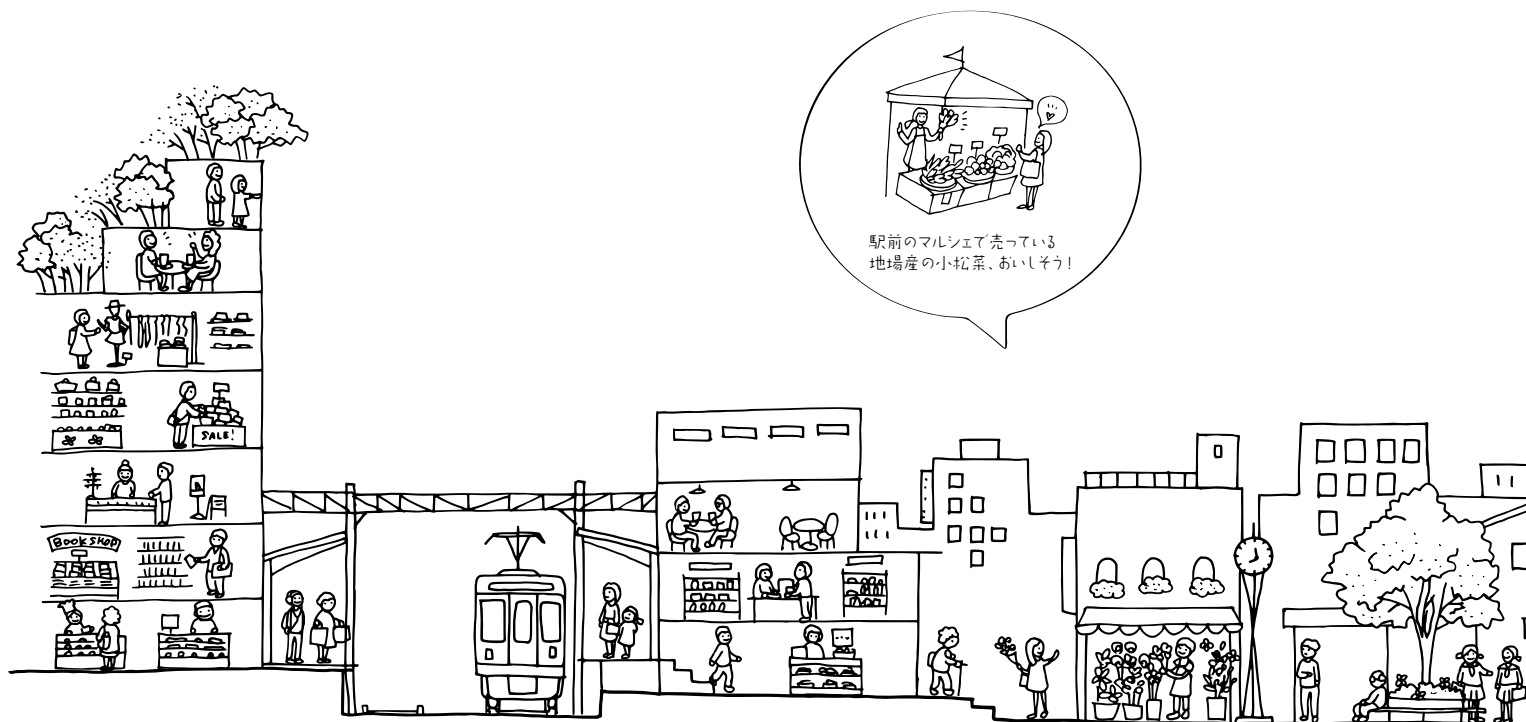


## 別章 風景スケッチブック

## 風景スケッチ 05: 郊外駅前および周辺 描き込み例

誰もが移動しやすく、使いやすい、ユニバーサルデザイン志向のコンパクトな駅周辺が形成され、つねに人が行きかい、賑わう駅前になっている。

- ・歩車の平面分離、歩行空間の充実
- ・歩行者優先の駅前広場
- ・歩行者目線に立った、駅前やまち全体の案内表示、バリアフリー
- ・地域の交通システムのターミナル・拠点

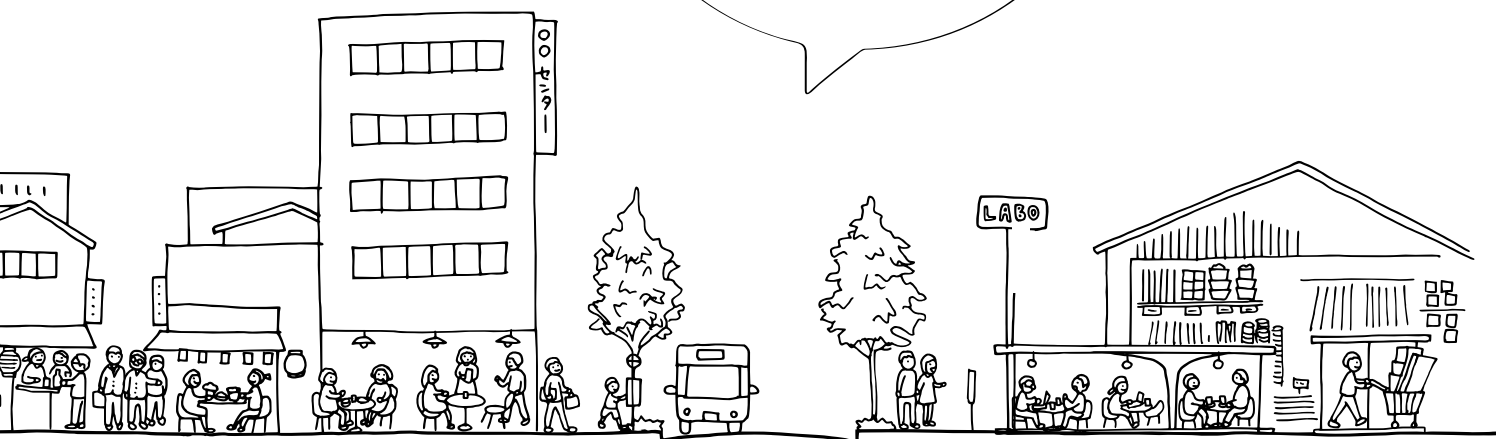
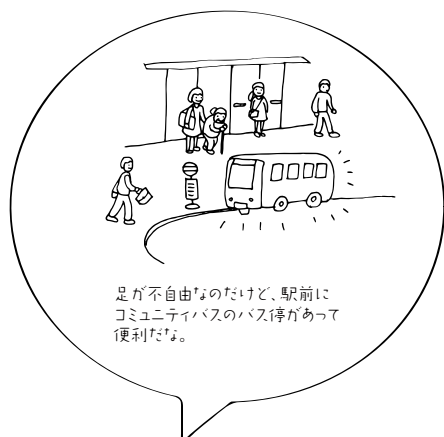


駅前に生活支援施設や地域の人々が集える広場があり、店舗などが出店し、豊かなコミュニティが生まれている。

- ・朝市、夕市、マルシェ、オープンカフェ
- ・図書館や区庁舎、道路、広場・公園など、公共施設をコミュニティの場として活用
- ・地域のエリアマネジメントのセンター

郊外のロードサイドショップ等が周辺の地域活動と連携したり、不要になった施設が地域活動の場として使われたりしている。

- 様々な空間を利用した市場や祭り
- 空き店舗や廃校を地域・多世代交流の施設としての利活用
- 道路沿いの緑化やサイン計画など歩行者空間化
- スプロールの抑制



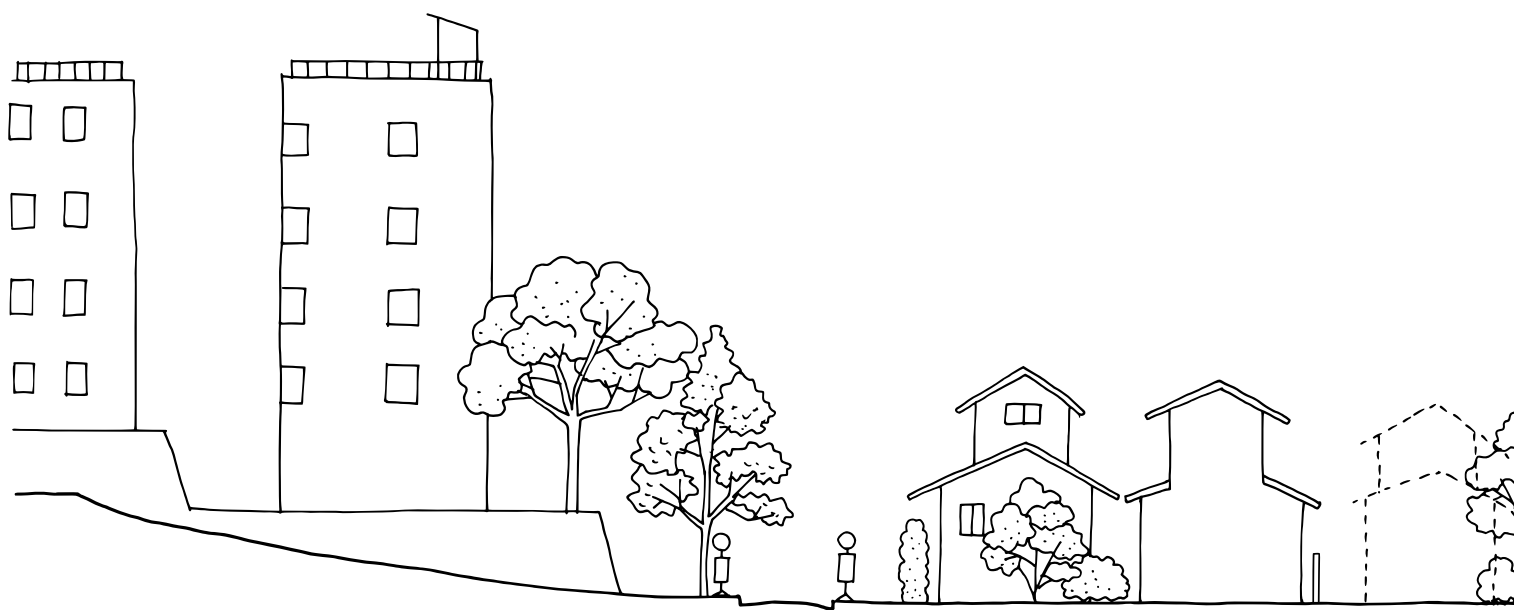
工場・工房のあるまちが「ものづくりの営みがあるまち」として人気となっている。

- 職住近接
- オープンファクトリー
- 市民工房
- 若い人の起業支援



## 別章 風景スケッチブック

## 風景スケッチ 06:郊外住宅地





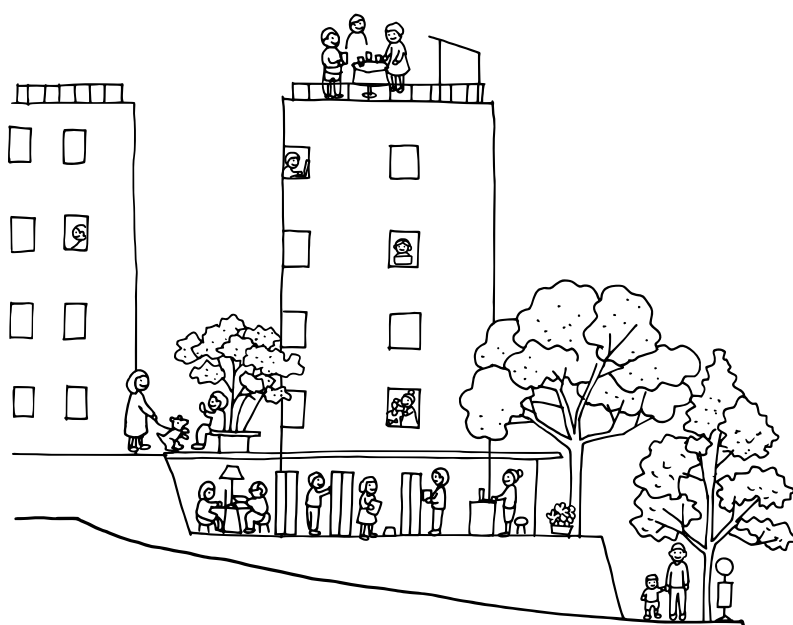
## 別章 風景スケッチブック

## 風景スケッチ 06: 郊外住宅地 描き込み例



郊外の住宅地が徐々に再生し、新しい郊外ライフが営まれている。

- ・発電や地域でのシェアなど、空き地、耕作放棄地の活用
- ・高齢者が外出したくなる街のしつらえ
- ・緑や景観など環境豊かな歩行者空間の形成
- ・複合した用途や機能をもった住宅地域
- ・郊外住宅取得促進（税制優遇、農園付き住居など）
- ・カーシェアリングなどライフスタイルにあった交通システム
- ・移動スーパーなどの郊外型サービス



団地ならではのゆとりある建物や敷地の特徴を活かして、多様なライフスタイルに合った再利用がされている。

- ・団地の区画全体の再生と部分的な一般開放
- ・各地区にあったコミュニティ空間の形成
- ・高齢者施設として一部開放するなどの多機能型団地
- ・公園の柔軟な活用の促進
- ・団地の空き室の起業オフィスとしての活用

都心で働く必要のない人が移住したり、平日は都心で働く人が週末利用する住居として空家が利用されている。

- ・郊外移住や週末住宅
- ・週末住宅利用の促進
- ・空家除却と空地活用
- ・オープンガーデン



廃校となった学校が用途転換されるなどして、地域を支える新たな拠点となっている。

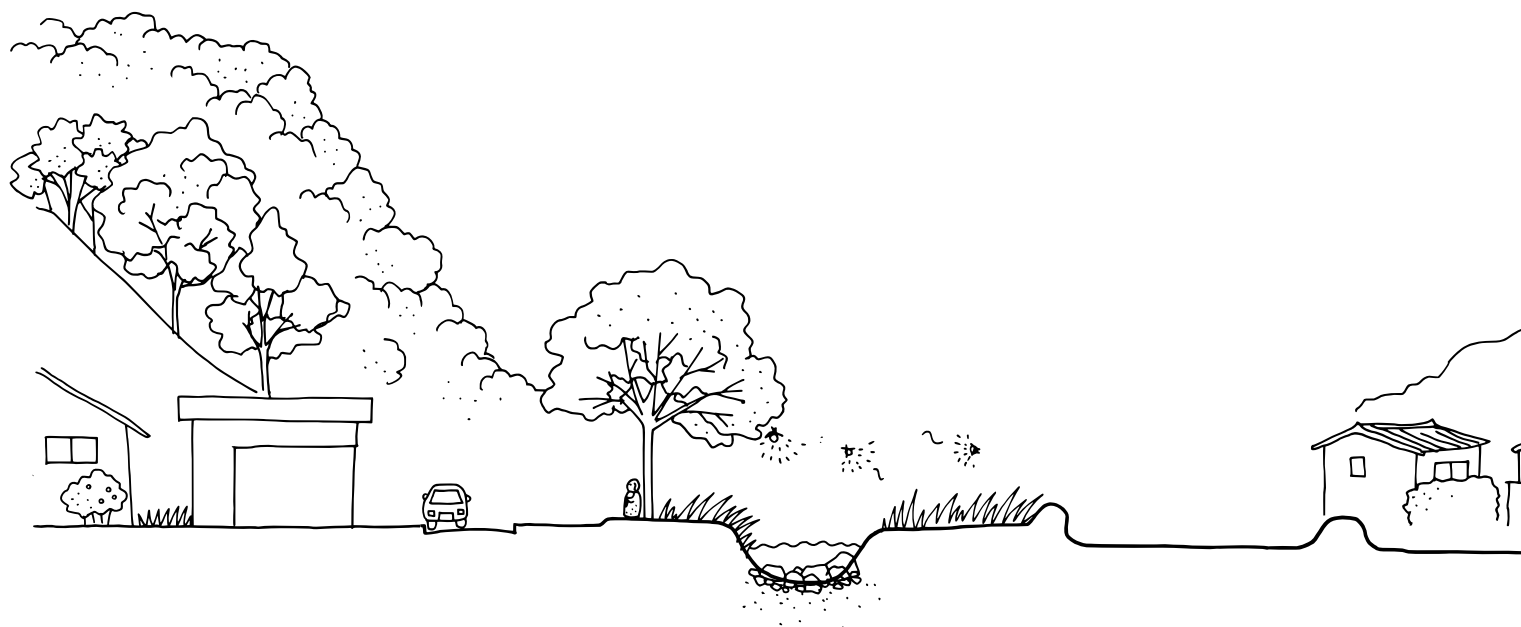
- ・公共用地・施設の活用
- ・用途の緩和・転換
- ・民間活力やノウハウの導入
- ・地域活動やコミュニティビジネスの拠点形成

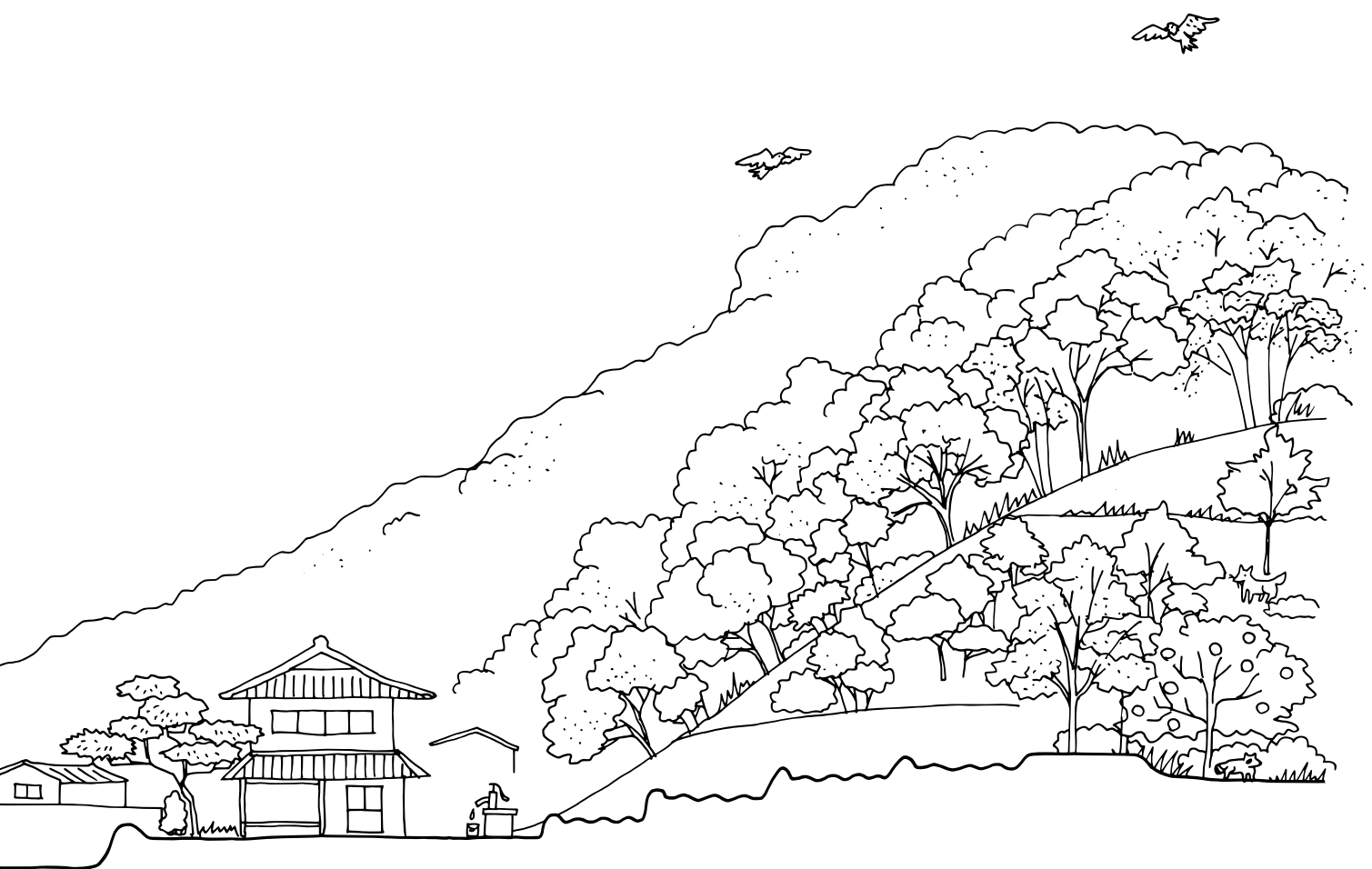




## 別章 風景スケッチブック

## 風景スケッチ 07:緑と農のある郊外





## 別章 風景スケッチブック

### 風景スケッチ 07: 緑と農のある郊外 描き込み例

昔からの曲がりくねった道が、歩行者や自転車等の主要動線として使われ、健康的な暮らしが営まれている。

- ・散策ルート
- ・シェアモビリティ



鳥や虫などの多様な生物や地形・植生とともに暮らすライフスタイルを選ぶ人が移住してきている。

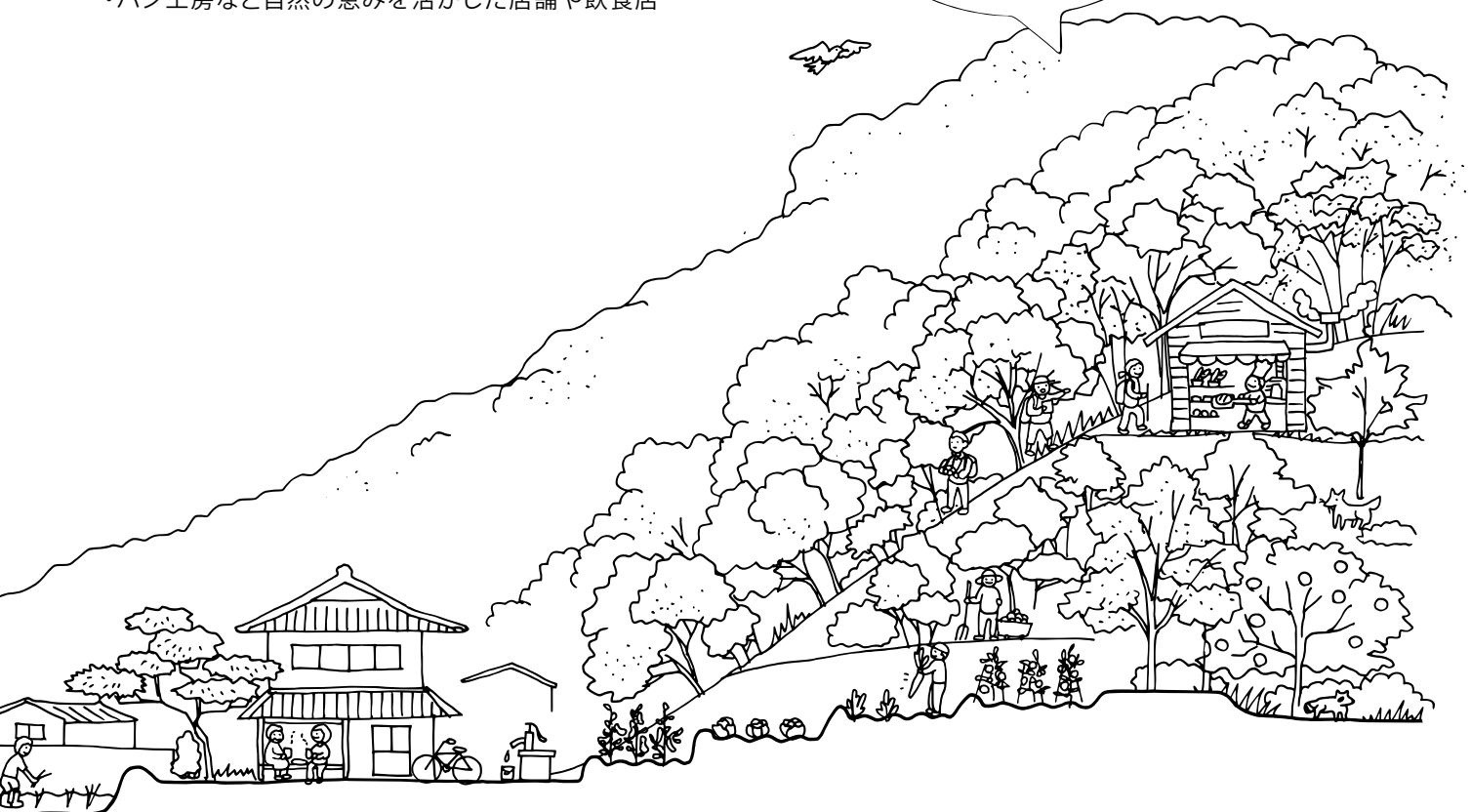
- ・蛍が棲める川辺づくり、渡り鳥定着への取など、生態系や河川環境の再生
- ・人が集まり憩える空間と機会づくり
- ・自然の中の保育園

大都市近郊の利点を生かした農業が継承され、新規就農者も増えて定着してきている。

- ・営農環境を守っていくための制度づくり
- ・無秩序な用途転換の制限
- ・新規就農者支援、農業体験促進
- ・クラインガルテン（農地の賃借）、援農方式、企業参入など、多様な市民農園の可能性
- ・地産地消

樹林地や里山に日常的に親しみ、自ら管理作業も行っている。スポーツができる場も多くあり、身近なレジャー、健康づくり、趣味活動の場として定着している。

- ・環境・健康・福祉・生涯学習の複合的視点
- ・元気な高齢者が活躍でき、多世代が交流する機会となる里山保全活動
- ・里山保全の担い手育成や活動支援体制
- ・パン工房など自然の恵みを活かした店舗や飲食店



平日は都心で暮らす人たちで空家と田畑をシェアし、週末になると菜園などをして過ごしている。

- ・空家利活用促進
- ・郊外におけるシェアハウスなどの促進
- ・郊外住宅取得促進の可能性(税制優遇、農園付き住居など)
- ・地域で共有する農園や庭





—付録—

## 付録一横浜の都市デザインに関する資料紹介

これまでの横浜の都市デザインの取組と取組が生み出してきた風景など、横浜の都市デザインに関してより詳しく知りたいときの助けとなる資料を紹介します。これらの資料は都市デザイン行政の側から取組をまとめたものになります。

### ◆リーフレット『URBAN DESIGN YOKOHAMA』（平成26年作成）

横浜の特徴的な場所や取組を取り上げ、横浜のまちを楽しむ工夫とその重なりを紹介するリーフレットです。普段からよく目にする横浜の風景の、その背景を知ることができる入門的資料です。



リーフレット『URBAN DESIGN YOKOHAMA』

# ◆パンフレット『横浜の都市デザイン』（平成24年作成）

横浜における都市デザインについてダイジェストでまとめられています。リーフレットよりもさらに詳しく横浜の都市デザインの事例を紹介したものです。



パンフレット『横浜の都市デザイン』





## ■第5章

## ●P43 ワークショップ

・ここでは、「仕事場」や「作業場」などの意味ではなく、参加者が専門家の助言を得ながら問題解決のために行う研究集会や、参加者が自主的活動方式で行う講習会などの総称。

## ●P44 オープンデータ

・一般的に、行政等の保有している各種データを、機械判読に適したデータ形式で、二次利用が可能な利用ルールで公開されたデータのことを言う。このことにより、人出を多くかけずにデータの二次利用が可能となる。

参考：総務省ウェブサイトより「オープンデータとは」

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_seisaku/ictseisaku/ictriyou/opendata/opendata01.html](http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/ictriyou/opendata/opendata01.html)

## ●P45 コンソーシアム

・複数の個人や団体から成り、共同で何らかの目的に沿った活動を行ったりする組織のこと。

## ●P45 アーバンデザインセンター

・地域の都市デザインを推進していくために、市民、企業、大学、専門家、行政などが集まる、開かれたまちづくりの場のこと。

## ●P45 フォーラム

・公開討論会、あるいはそれを行う場所の意味。古代ローマの市の中心に設けられた公共広場〈フォーラム〉に発し、転じて今日では、広く公共的討論の場や、集团的公開討論法の一つを意味するようになった。現在では、裁判所や新聞の投書欄その他、広く公共的討論の場を意味するほか、出席者全員が参加して行う集団討議法(フォーラムディスカッション)をもいう。

## ■風景

### ●P53 OPEN YOKOHAMA ステートメント（横浜の未来像）：

・2009年、開港150周年という記念すべき年に、ヨコハマでは、市民同士が横浜の未来を語り合い、横浜の未来像を描く「市民参加型都市ブランド共創プロジェクト"イマジン・ヨコハマ"」が行われ、市民の想いを基に、「横浜の未来像」を表したステートメント、スローガン、ロゴマークが生まれた。

## <カット00>

### ●P55 インフラ

・インフラストラクチャー（infrastructure）の略。交通施設、電気・上下水道・ガスなどのライフライン等の施設、学校・病院・公園など公共公益施設等、産業や暮らしを支える基盤となる施設のこと。

### ●P56 ビッグデータ

・民間企業や行政が保有する大量で多種多様なデータのこと、収集・分析をすることにより、新たな知見を発見しようとするもの。

出典：千葉市HP「ビッグデータ・オープンデータとは」

[http://www.city.chiba.jp/somu/joho/kaikaku/bigdata\\_opendata\\_fpage.html](http://www.city.chiba.jp/somu/joho/kaikaku/bigdata_opendata_fpage.html)

## ■別章

## &lt;カット01&gt;

## ●P59 サステナブルシティ

・持続可能な都市ともいう。サステナブル（持続可能な）とは、将来世代がそのニーズを満足させる可能性を損なうことなしに、現在世代がそのニーズを満足させること。「持続可能な都市」といった場合は、特に、有限な生物資源やエネルギー資源などや、ハード・ソフトの社会インフラや経済活動などについて、将来にわたって持続的に発展していけるような都市のことを言うことが多い。

参考：<http://ja.wikipedia.org/wiki/持続可能性>

## ●P59 テクノスケープ

テクノロジー（技術）とランドスケープ（景観）との合成語で、工場等の産業施設からなる景観のこと。

## ●P59 オープンファクトリー

・ものづくりやまちの魅力を伝えるために、普段見ることが出来ない工場等を見学できるようにする催し。

## ●P60 ビオトープ

・ビオトープ（BIOTOP）とは、BIOS（生きもの）とTOPOS（場所）というギリシャ語をもとに作られたドイツ語で、地元に昔から暮らす生きものたちに必要な条件が揃った「すみか」を指す。ビオトープはやってきた生きものを通してビオトープがどのような「すみか」となっているかを理解しながら管理する場所のこと。

出典：横浜市HP「学校ビオトープのすすめ」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kyouiku/biotope/>

## ■別章

### <カット02>

#### ●P63 インスタレーション

・現代美術の手法のひとつ。作品を単体としてではなく、展示する環境と有機的に関連付けることによって構想し、その総体をひとつの芸術的空間として呈示すること。また、その空間。

#### ●P63 フロート

・「浮き」のこと。ここでは、人工の島のような浮体構造物のことを指す。

#### ●P64 オープンカフェ

・道路に面した壁を取り払って開放的な構造にしたり、道路・公園等の屋外空間で飲食できるようにしたりしたレストランやカフェ等のこと。

#### ●P64 マルシェ

・フランス語で「市場」を指す。近年は、市街地で、生産者と消費者をつなぐことを目的として、地域の野菜などの食材を売る「青空市場」のことを示すことが多い。

#### ●P64 ユニークベニュー

・歴史的建造物や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場。

出典：観光庁HP「MICEの開催・誘致の推進」より

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/mice.html>

#### ●P64 MICE

・企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

出典：観光庁HP「MICEの開催・誘致の推進」より

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/mice.html>

#### ●P64 リノベーション

・Renovation（修復、刷新、革新等の意味）。建物の修復・補修などを意味するリフォームに対して、既存の建物に大規模な改修工事を行い、用途や機能を変更して性能や質を向上させるなどして、付加価値を与えること。

## 付録一用語解説 03

## ■別章

## &lt;カット03&gt;

## ●P67 ニッチな空間

狭い路地や、建物間のすきまなど、まちなかの様々な小さな空間の総称。

## ●P67 サードプレイス

・米国の社会学者Ray Oldenburgが提唱した概念で、自宅を「ファースト・プレイス（第一の場所）」、職場や学校を「セカンド・プレイス（第二の場所）」としたときに、そのどちらでもない、第三の居場所を指す。

## ●P67 コンベンション

・国際団体、学会、協会等が主催する総会、代表者会議、学術会議、見本市、博覧会など大規模な催し。

## ●P68 シェアモビリティ

・自動車や自転車等の乗り物を共有する会員制度の仕組みのこと。カーシェアリング、シェアサイクル、コミュニティサイクルなど、様々なタイプ、呼称がある。

## ●P68 L R T

・Light Rail Transitの略で、低床式車両(LRV)の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する次世代の軌道系交通システムのこと。近年、道路交通を補完し、人と環境にやさしい公共交通として再評価されている。

出典：国土交通省HP「LRT(次世代型路面電車システム)の導入支援」

[http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/lrt/lrt\\_index.html](http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/lrt/lrt_index.html)

## ●P68 接続バス

・乗客の大量輸送のために車体が2連以上につながっているバスのこと。

## ●P68 スロー交通

・歩行者や自転車、更にはセグウェイのような新しい乗り物など、自動車や電車と比較して移動速度が遅い交通手段のこと。

## ●P68 デジタルサイネージ

・表示と通信にデジタル技術を活用して平面ディスプレイやプロジェクタなどによって映像や情報を表示する広告媒体のこと。

出典：<http://ja.wikipedia.org/wiki/デジタルサイネージ>

## ●P68 トリエンナーレ

・3年に1度開催される美術展覧会。横浜でも2001年より現代アートの国際展として開催されている。

## ■別章

### <カット03>

#### ●P68 ウォールペイント

- ・建物の外壁などに描かれた絵やアート作品のこと。

### <カット04>

#### ●P71 セットバック

- ・建築物の外壁を敷地境界線から後退させて建てること。また、建築物の上部を段状に後退させること。

#### ●P72 木造密集地域

- ・市街地において、木造住宅などが密集して建っている地域。

### <カット05>

#### ●P75 ユニバーサルデザイン：

- ・あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

出典：国土交通省 ユニバーサルデザイン政策大綱

#### ●P75 バリアフリー

- ・高齢者や障害者などが社会生活をしていくうえで障壁（バリア）となるものを取り除く（フリー）こと。物理的、社会的、制度的、心理的、情報面でのバリアなど、全てのバリアを取り除くという考え方。

出典：横浜市HP「バリアフリーの基礎知識」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/chifuku/fukumachi/barrierfree/column/5.html>

#### ●P76 スプロール

- ・むやみに広がるという意味の言葉。ここでは、都市の急激な発展で、市街地が無計画に郊外に広がっていく現象のことを指す。

## ■別章

## &lt;カット05&gt;

## ●P76 エリアマネジメント

・地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組。(国土交通省都市・水資源局(2008(平成20)年3月)「エリアマネジメント推進マニュアル」)

また、「新たな担い手による地域管理のあり方検討委員会(委員長:小林重敬横浜国立大学大学院教授;2006(平成18)年度)」報告書においては、『一定の地域(エリア)における良好な居住環境等の形成・管理を実現していくための地域住民・地権者による様々な自主的取組(合意形成、財産管理、事業・イベント等の実施、公・民の連携等の取組を指し、専門家や支援団体の支援等を含む。)]と定義されている。

出典:「横浜市都心臨海部再生マスタープラン用語集」より

## ●P76 オープンファクトリー

※P75をご参照ください

## &lt;カット06&gt;

## ●P79 カーシェアリング

・シェアモビリティ参照。

## ●P80 オープンガーデン

・丹精こめた個人の庭や花壇などを一定期間、一般に公開するという活動・催しのこと。

## ●P80 コミュニティビジネス

・地域資源を活かしながら地域課題の解決を「ビジネス」の手法で取り組むものであり、地域の人材やノウハウ、施設、資金を活用することにより、地域における新たな創業や雇用の創出、生きがいを生み出し、地域コミュニティの活性化に寄与するものと期待されている。

出典:経済産業省関東経済産業局HP

<http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/community/>





### ●検討経過記録

平成26年 4月 都市美対策審議会より提言  
平成26年 4月 横浜都市デザインビジョン検討開始  
平成26年 6月 第8回都市美対策審議会政策検討部会にて審議  
平成26年 9月 第9回都市美対策審議会政策検討部会にて審議  
平成26年12月 第10回都市美対策審議会政策検討部会にて審議  
平成27年 2月 市民意見募集実施（2月3日から3月3日まで）  
平成27年 3月 第11回都市美対策審議会政策検討部会にて審議  
第118回都市美対策審議会にて報告

### ●横浜市都市美対策審議会名簿

会長 西村 幸夫 東京大学先端科学技術研究センター所長（都市デザイン）  
委員 加藤 仁美 東海大学工学部建築学科教授（都市計画）  
// 金子 修司 横浜商工会議所  
// 国吉 直行 横浜市立大学特別契約教授（都市デザイン）  
// 近藤 ちとせ 横浜市弁護士会 弁護士  
// 佐々木 葉 早稲田大学創造理工学部社会環境工学科教授（景観）  
// 鈴木 智恵子 エッセイスト  
// 関 和明 関東学院大学建築・環境学部建築・環境学科教授（建築史）  
// 高橋 晶子 武蔵野美術大学造形学部建築学科教授（建築）  
// 竹谷 康生 市民委員  
// 中津 秀之 関東学院大学建築・環境学部建築・環境学科准教授（ランドスケープ）  
// 野原 卓 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授（都市計画）  
// 六川 勝仁 市民委員

### ●横浜市都市美対策審議会 政策検討部会名簿

部会長 西村 幸夫 東京大学先端科学技術研究センター所長（都市デザイン）  
委員 国吉 直行 横浜市立大学特別契約教授（都市デザイン）  
// 佐々木 葉 早稲田大学創造理工学部社会環境工学科教授（景観）  
// 中津 秀之 関東学院大学建築・環境学部建築・環境学科准教授（ランドスケープ）  
// 六川 勝仁 市民委員

## 横浜都市デザインビジョン—個々の暮らしと横浜を豊かにするための羅針盤—

企画・編集・デザイン 横浜市都市整備局企画部都市デザイン室

発行 横浜市

発行年月日 平成27年〇月〇日

本ビジョンは、昨今の社会変化などもふまえ、これまで横浜が都市デザインへの取組を通して得た経験や知識がより多くの人に共有され、個々が自分の暮らしを豊かにしようとする際の助けとなり、またその結果横浜全体がますます豊かな都市となるよう、横浜の都市デザインの重要なエッセンスを抽出しとりまとめ、ビジョンとして策定したものです。

